

---

# 真昼の旋律

真白

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真昼の旋律

### 【Nコード】

N9423M

### 【作者名】

真白

### 【あらすじ】

昼休み、ピアノを弾いてすごす少女には、ある理由がありました。

白い鍵盤に、そっと細い指がおかれる。

刹那、強く重い、悲しい旋律。

ベートーベンのソナタ悲愴第一楽章だ。

繊細な十六分音符の羅列、そしてなんともいえない力強さ。

私の意識は曲の中をただよう。

雨上がりの霧の中を歩いているような、ふわふわした不思議な感覚は、うっとりするほど甘い。

流れるようになめらかな指先で、軽やかなスタッカートを刻む。

私の心も躍りだす。

好きで、好きで、しかたがない。

ピアノを弾く事が、辛い現実から逃げられる唯一の時間だった。

鍵盤をたたいている時だけの、限りある魔法。

でも、私は知っていた。

魔法はいつも決まって、いいところで終わってしまうことを。

私が昼休み、音楽室でピアノを弾いて過ごすのには理由がある。

3ヶ月前、お父さんが事故をおこして人を殺した。

ハンドルをきりそこねたお父さんの車は、ブレーキを踏む事もなく、あっけなく歩道につっこんだ。

お父さんは腕の骨を折ったくらいで済んだものの、歩道を歩いていた女性は、即死だった。

それから一変した、私の毎日。

お父さん、そして家族にむけられる冷たい視線。

友達なんて、1人もいなくなった。

冷たくなった友達達は、私のことが邪魔でしかたがないようだ。

……当然のことなのかもしれない。

誰も、殺人者の子供なんて相手にしたいと思わないに決まっている。

仕方の無いことなんだ、と諦めることしかできない。  
「今日も弾いてるんだ、へんなの」

突如背後から聞こえてきた、あざ笑うような笑い声。  
気にするな、私。

いつもの事なんだ、気にしたら負けなんだ。  
いつそう私は曲にのめりこむ。

「そんな変な曲、馬鹿じゃない」

きやはははは、高い声が響く。

ぷつり、と何かが途切れた音がした。

……変な曲なんかじゃない。

悔しくて、ぎりりと奥歯を強く噛む。

おまえたちに、何が分かる。

何もかも消えてしまった私に、唯一残ったのがピアノだった。

鍵盤だけが、私に優しい。

私の気持ちを素直に表現できる、受け入れてくれる。

ソナタ悲愴は、まさに私だった。

「やめて」

低くつぶやいた声は、彼女たちには届かない。

ならば。

私はすう、と息を吸い込んだ。

指先に力をこめる。

響き渡る、重々しく低い、八短調の悲しい調べ。

虚空をただよい、ゆつくりと消える。

お前たちに、私の気持ちが分かるか。

おもいつきりフォルテッシモをたたきこむ。

その後のピアノは、優しく、それでいて鋭く。

私は弱い。

言葉では反論なんて出来ないから、いつも語るのはピアノごしだ。

ピアノは、私の体の一部。

紡ぎだす旋律は、発する言葉。

私は知らず知らずのうちに、助けを求めていたんだ。

だから、廊下まで聞こえていると分かっている、こんなにも悲しい曲を弾く。

私とソナタ悲愴を重ねて、響かせる。

諦めたと思っけていても、結局はどこかで期待していたのかもしれない。

もう、いいや。

私は指を止めた。

哑然として立ちつくしている彼女たちへ視線を向ける。

分かっているのに、諦めきれないくらい中途半端な自分は卒業する。

変な期待もやめて、自分で戦う。

「馬鹿にすんなよ」

勝てる自信なんかない。

でも、それならそれで、誰よりも美しく散ってやる。

悲愴のように、美しく。

(後書き)

短くなってしまった…；

二作目です。

前回に引き続き乱文すいません；

そして暗い内容ばかりでごめんなさいっ

こういう人です(え

読んでくれた優しい方々、ありがとございます。

これからもよろしくお願いします！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9423m/>

---

真昼の旋律

2010年12月31日23時27分発行